

クラレ通信

CONTENTS

- 1・・・会社概要
- 2・・・株主の皆様へ
- 3・・・[特集1] 2005年度中間決算／通期業績予想
- 5・・・[特集2] 進化するガスバリア材
- 7・・・[特集3] ディスプレイの未来を切り開く
- 9・・・クラレトピックス
- 11・・・財務情報
- 13・・・株式情報
- 14・・・アンケート
- 巻末・・・株主メモ

第125期 中間事業報告書

2005年4月1日～2005年9月30日



株式会社 クラレ

社名	株式会社 クラレ
英文社名	KURARAY CO., LTD.
設立	1926 (大正15) 年6月24日
資本金	890億円
東京本社	〒100-8115 東京都千代田区大手町1-1-3 (大手センタービル) TEL (03) 6701-1000 FAX (03) 6701-1005
大阪本社	〒530-8611 大阪市北区梅田1-12-39 (新阪急ビル) TEL (06) 6348-2111 FAX (06) 6348-2165
ホームページ	http://www.kuraray.co.jp/

クラレグループ事業概要

化成品・樹脂	ポバール樹脂・ポバールフィルム・ 〈エパール〉・イソプレン・ファインケミカル・ メタクリル樹脂・樹脂加工品
織 維	ビニロン・人工皮革・不織布・面ファスナー・ ポリエステル・テキスタイル
機能材料・メディカル他	オプスクリーン・メディカル製品・機能材料・ 活性炭・高機能膜・エンジニアリング

役員 (2005年9月30日現在)

取締役		監査役		執行役員			
代表取締役 会長	松尾 博人	常勤監査役	松澤 晰	上席執行役員	田中 隼介	執行役員	下田 勸嗣
代表取締役 社長	和久井 康明	常勤監査役	中野 達也	上席執行役員	和食 征二	執行役員	吉野 博明
専務取締役	櫛田 浩一	監査役	柏原 一英	上席執行役員	浅葉 修	執行役員	坂井 俊英
常務取締役	藪田 勉	監査役	小林 一郎	上席執行役員	吉村 典昭	執行役員	五反田 進
常務取締役	大橋 克巳	監査役	北川 俊光	上席執行役員	岩脇 伸夫	執行役員	柳田 登
常務取締役	田中 隼介			上席執行役員	冨井 敏弘	執行役員	沢田 献三
常務取締役	和食 征二			上席執行役員	蜷川 洋一	執行役員	富田 秀男
常務取締役	浅葉 修			上席執行役員	伊藤 文大		
取締役	竹内 信亮			上席執行役員	片岡 史朗		

(注) この冊子に記載した財務データはすべてクラレグループ連結ベースです。

(注) この冊子に掲載の〈 〉をつけた名称は、当社製品の商標です。

* 田中 隼介、和食 征二、浅葉 修は常務取締役と上席執行役員を兼任しています。

株主の皆様へ



代表取締役社長

和久井 康明

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素はクラレグループをご支援いただき、厚く御礼申し上げます。

当中間期の経営環境は、国内景気は踊り場を脱しつつありますが、原燃料価格の高騰や大きな自然災害が続いており世界景気には不透明感がぬぐえません。こうした中でクラレグループは、独自製品の販売拡大やコスト合理化に努め、当中間期の連結業績は、売上高一七九三億円、営業利益一七二億円と上期としては四期連続の増収増益となり過去最高を更新しました。しかし、想定以上の原燃料価格高騰の影響を受け、期初予想に対しては若干の未達となりました。経常利益は一五〇億円、中間純利益は九二億円となりました。

当一二五期の通期予想は上期の実績を踏まえて、売上高三七五〇億円、営業利益三八〇億円、経常利益三四〇億円、当期純利益二〇〇億円と、期初予想から売上高一〇〇億円、営業利益および経常利益二〇億円、当期純利益一〇億円の下方修正をいたしました。しかし、下期には原燃料価格の売値転嫁を一層進めるとともに、主力製品の設備投資立ち上がりによる拡販のスピードアップにより、期初予想すなわち中期経営計画「G'21」の最終年度目標である営業利益四〇〇億円に限りなく近づけるよう、全力でリカバリーに努めます。なお、九月九日に爆発、火災事故が発生した岡山事業所酢酸ビニル生産工程は一〇月一七日より一部運転を再開し一二月末を目処に通常運転に復旧する見通しであり、設備損害や操業度低下等の影響も増産対応や保険等により吸収できる見通しです。

二〇〇一年度にスタートした「G'21」は、①酢酸ビニル系・イソブレン系・人工皮革系の基幹素材事業の拡大 ②光学材料事業の強化 ③収益構造の改善の三点を事業戦略の核として推進してきました。振り返ってみますと、戦略はほぼ計画通り進めることはできたと自己評価していますが、①クラレグループの特長ある基幹素材事業といえども新規開発品による市場拡大なくしては成長に限界がある ②クラレグループのようなスペシャリティ化学会社では製品の高付加価値化による価格アップが重要である ということを改めて認識させられました。これからの企業経営には地球環境やエネルギー問題を真剣に捉え、量から質への転換が重要と考えています。現在の事業戦略や外部環境を十分見直した上で、来春にはクラレグループの次代への成長ステップとなる中期経営計画を発表したいと思えます。

当中間期の配当金につきましては、前年同期比一円増配の六円五〇銭とさせていただきますました。また、年間配当金は通期予想利益の達成を勘案して、前期比二円増配の一四円を予定しております。

株主の皆様には、今後とも一層のご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

二〇〇五年十二月

特集1

二〇〇五年度 中間決算／通期業績予想

二〇〇五年度上期事業セグメント別状況

化成品・樹脂の売上高はH T T社のPVBフィルム事業の買収効果などにより六九億円の増収、営業利益は原燃料価格の製品価格への転嫁の遅れと設備投資の効果発現の遅れにより三億円の減益となりました。

化成品・樹脂の売上高はH T T社のPVBフィルム事業の買収効果などにより

六九億円の増収、営業利益は原燃料価格の

製品価格への転嫁の遅れと設備投資の効

果発現の遅れにより三億円の減益となり

ました。

繊維はポリエステル等で低採算銘柄を減産したことにより、売上高は八億円の減収となりましたが、営業利益は全製品が増益となり八億円増加しました。

機能材料・メディカル他はC R T向け

オプトスクリーンの不振により売上高は

二四億の減収、営業利益は四億の減益と

なりました。

表示は億円未満を四捨五入しています。()は前年度比

売上高	900億円(+69億円)
営業利益	140億円(-3億円)

化成品・樹脂

ポバール

増収・利益横ばい

光学用フィルムは新ライン(3,000万m²)が完工、一部が稼働開始し、昨年12月に買収したPVBフィルム事業も順調ですが、ポバール樹脂は日本、欧州、アジアで売上げが減少しました。

<エバール>

増収・減益

日本・欧州で食品包装用途が堅調に推移しましたが、米国のガソリタンク用途などの不振と厳しい原燃料価格の上昇により、全体として伸び悩みました。

イソプレン

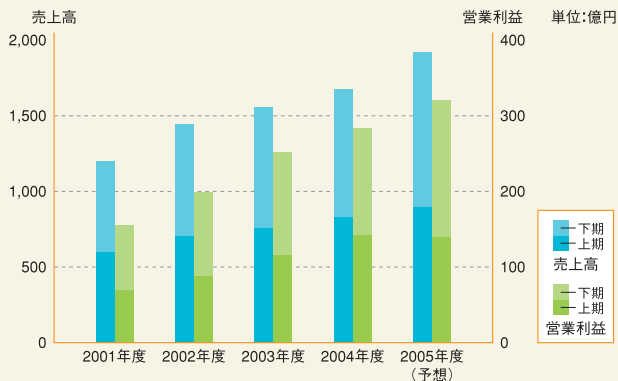
増収・利益横ばい

熱可塑性エラストマー(セプトン)はアジア・欧州・米国で売上げ拡大。ファインケミカルは医薬・農業中間体が堅調でしたが、原燃料価格の影響を受けました。

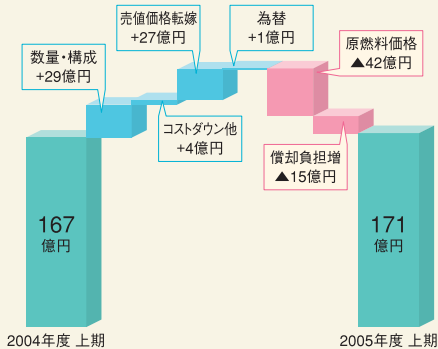
メタクリル

売上げ横ばい・増益

汎用品の需要は足踏みしましたが、液晶ディスプレイ導光体の需要が旺盛でした。なお、当期末をもって三井化学株式会社とのMMAモノマー生産合弁を解消し、折半出資の共同モノマー株式会社の株式持分を同社に譲渡しました。



2005年度上期 営業利益増減要因



売上高・営業利益 (億円)

表示は億円未満を四捨五入しています。

	2004年度上期		2005年度上期	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
化成品・樹脂	830	143	900	140
繊維	544	42	537	50
機能材料・メディカル他	381	39	356	36
消去・全社	—	▲57	—	▲55
合計	1,756	167	1,793	171

機能材料 メディカル 他

表示は億円未満を四捨五入しています。()は前年度比

売上高	356億円(-24億円)
営業利益	36億円(-4億円)

オプトスクリーン

減収・減益

MDタイプの生産が収率向上により拡大しましたが、CRTタイプが需要減退と価格下落により売上げが減少しました。

メディカル

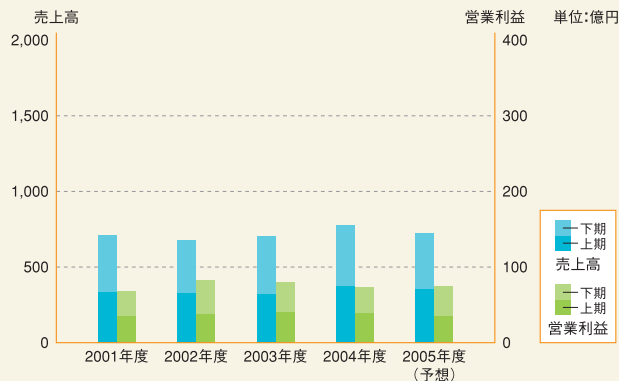
売上げ横ばい・増益

医療器材は競争激化により厳しい状況が続いていますが、歯科材料は新製品の投入により売上げを伸ばしました。なお、コンタクトレンズ事業は、当期末をもって株式会社ファンルに譲渡いたしました。

機能材料・その他

増収・増益

活性炭事業は売上げは堅調でしたが、原料高騰の影響により減益となりました。エンジニアリングその他の関連事業は堅調に推移しました。



二〇〇五年度通期の業績予想は売上高三、七五〇億円、営業利益三三八〇億円、経常利益三四〇億円、当期純利益二〇〇億円としています。なお、下期の業績について、平均為替は米ドル二〇円、ユーロ一三五円、ドバイ原油価格は五二ドル／バレルを前提にしています。

機能材料・メディカル他では、オプトスクリーンはMDタイプの拡大、メディカルは歯科材料の欧米市場の拡大を進めます。(「ジェネスタ」は量産体制の基盤を確立し、活性炭は高機能製品の拡大を図ります。

繊維

表示は億円未満を四捨五入しています。()は前年度比

売上高	537億円(-8億円)
営業利益	50億円(+8億円)

ビニロン・〈クラロンK-II〉

増収・増益

ビニロンは欧州でのアスベスト代替用途が好調、〈クラロンK-II〉も水溶性用途で売上げを伸ばしました。

〈クラリーノ〉

売上げ横ばい・増益

中国向けスポーツ需要が一服状態でしたが、鞆など軽工品や研磨材など工業用途が堅調でした。

不織布／面ファスナー

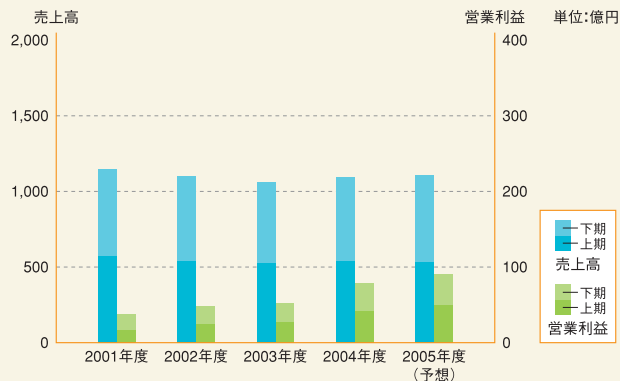
増収・増益

不織布はコストダウンが進展、製品価格も下げ止まりました。面ファスナーの需要も好調に推移しました。

ポリエステル

減収・増益

長繊維はユニホームなど製品事業が好調、低採算製品は減産しました。短繊維は収益改善が足踏みしましたが、全体では減収ながら増益となりました。



二〇〇五年度通期の業績見通し

化成品・樹脂では、ポパールは光学用ポパールフィルムの液晶ディスプレイ用途での拡大と樹脂の差別化製品の拡販、「エパール」は原料価格の製品価格への転嫁と新製品「エパールSP」（〈クラリスタ〉）等の市場展開を加速します。熱可塑性エラストマーはグローバルでの市場拡大を進め、メタクリル樹脂は光学用途の拡大を図ります。

繊維では、ビニロンはFRC用途を始めとした特長分野での拡大に注力し、〈クラリーノ〉は新プロセスの立上げとインテリア用途等付加価値分野の拡大を図ります。ポリエステルはさらなる構造改善を進め、収益の確保に努めます。

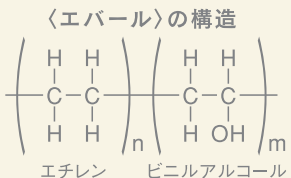
進化するガスバリア材

—「エバール」、そして次世代バリア材の開発—

食品を酸化から守るガスバリア材とはどのようなものか？

食べ物を長く保存させるには、「酸化」させないよう気体を遮断する必要があります。クラレの「エバール」(エチレンビニルアルコール共重合体EVOH)は気体を遮断する能力、すなわち、ガスバリア性能が非常に優れている素材です。

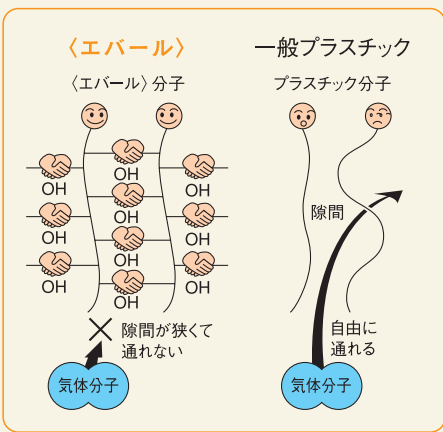
一九七二年に事業化され、主に食品包装材料用途で需要を伸ばしてきた「エバール」は、炭素(C)・水素(H)および酸素(O)の三元素のみからなる合成樹脂であり、焼却時に有害なガスを発生しない(炭酸ガス)と「水」に戻ります。ことから、環境対応型の樹脂として認知されています。



食べ物の保存に従来から使用されてきた缶詰(金属)やガラス瓶に対して、プラスチック(樹脂)容器には、①軽量化による取り扱いやすさ ②軽量化による輸送コスト削減 ↓環境負荷の低減 ③製品の形状や大きさに応じた大量生産が容易 などの特徴があります。

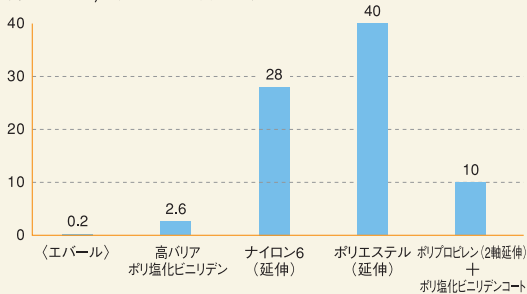
「エバール」が気体を通しにくい理由

気体がプラスチックを通るには、①気体がプラスチックに入りやすい(なじみやすい・親和性がある) ②プラスチック中に気体を通れるような隙間が多い(分子間に隙間が多い) ③結晶がない(結晶には隙間がないため気体は通れない)などが必要とされています。ところが「エバール」は、①極性(分子内で電子密度の高い部分と低い部分とが分かれている)があるため、極性のない酸素などの気体とはなじみが悪い(水と油の関係のように) ②水酸基(OH)同士が強く引き合うため、分子の間ほとんど隙間がない ③結晶性である などの性質を併せもっていることから、気体なかなか通過することが出来ないのである。



各種フィルムの気体透過性能評価(20℃)

(単位:cc・20μm/m²・24時間・atm)



各種フィルムを湿度65%、温度20℃の状況下で、厚さ20μmあたり、何ccの酸素が24時間に透過されるかを測定。

需要裾野の拡大

ガスを通しにくい性質は、食品包装材料以外の分野にも必要とされています。自動車のガソリンタンクの内層に「エバール」を使用することで、ガソリンの大気への揮発を抑制することが出来、米国を中心として採用が進んでいます。ガソリンタンクの樹脂化はヨーロッパで先行して一九七〇年頃より進められてきました。西欧で約九〇%、米国で約七〇%が従来の金属製から樹脂化されています。今後は日本をはじめ、世界的に更に樹脂化されていくものと考えられます。樹脂製タンクは金属製タンクに対して、

一般に次のようなメリットがあげられます。

- 防錆性
- 軽量性
- 形状の自由度
- 安全性
- 鉛を使用する必要が無い
- 製造工程の合理化・作業環境の清浄化 など

世界的に地球環境保護のための規制が強化されており、樹脂製タンクのごガスバリア性能(燃料の揮発の削減)が重要となっていくことから、今後(エバール)の採用が増えるものと期待されます。

新規ガスバリア材の開発

食品包装の多様化に伴ない、さらに高性能・高機能なガスバリア材が求められています。クラレは(エバール)で培った技術をベースに次世代のバリア材を次々に開発、市場投入していきます。

(エバールSP)

(エバール)は柔軟性が高い樹脂ではないため、成形加工で高い延伸性を必要とする容器などにはあまり用いられませんでしたが、高い柔軟性とバリア性を併せもつ新しいバリア材(エバールSP)の開発に成功し、二〇〇四年秋から販売を開始しました。これにより、深絞りカップ・トレイ・バリアーポトルなど生産加工時に延伸させながら成形する容器への対応が可能になりました。

(エバールSP)は(エバール)と同程度の気体遮断性能を持ちながらも柔軟性(三〇〇%近く延伸が可能)があり、(エバール)と同じく炭素(C)、水素(H)、酸素(O)のみから構成されている環境対応型の樹脂として、さまざまな容器で採用が始まっています。

(クラリスタ)

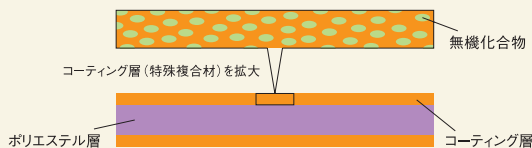
(エバール)樹脂をはじめ既存素材では耐レトルト性と高バリア性との両立が困難でしたが、この弱点を克服した新しいガスバリア材を開発しました。

(クラリスタ)は耐レトルト性(三〜五°C六〇分)の高温加熱殺菌処理が可能のあるガスバリア材です。ポリエステルフィルムに、無機化合物をナノレベルで分散した「特殊複合材」をコーティングした透明なフィルムで、従来の透明フィルムでは難しかったレトルト処理後の高いガスバリア性(一日あたりの酸素透過量が $1cc/m^2$ 以下)を発揮します。(クラリスタ)によって従来のアルミニウム製パックでは対応できなかった電子レンジでの加温が可能になる他、焼却時の残渣(ごみ)が発生しません。また、食品加工場においては、パッケージ後の金属探知機による異物検査が可能になります。この度、クラレ玉島(株)(岡山県)での生産設備の新設に着手し、二〇〇六年七月に生産稼働の予定です。

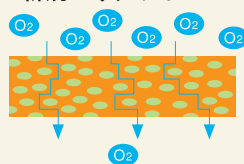
レトルト食品市場はライフスタイルの変化から拡大しており、世界市場規模は包装材料の面積で五億 m^2 以上(当社推定)あり、今後も着実に拡大するものと見込まれます。また、今回開発したポリエステルベースの他に、ナイロンなど他素材をベースとしたフィルムの開発を進めており、今後の高付加価値バリアフィルムとして(クラリスタ)の

製品ラインアップを拡充していきます。

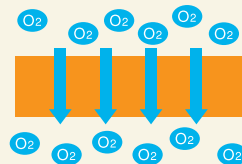
(クラリスタ)断面図



(クラリスタ) 新規バリアフィルム



従来のバリアフィルム



生産能力

(エバール)樹脂

(株)クラレ 岡山工場	10,000 t/年
エバールカンパニーオプアメリカ (テキサス:アメリカ)	23,000 t/年 (+24,000 t/年) ※2006年3月完工予定
エバールヨーロッパ(アントワープ:ベルギー)	24,000 t/年

(エバールSP)

(株)クラレ 岡山工場	5,000 t/年
-------------	-----------

(エバール)フィルム

(株)クラレ 岡山工場	3,000 t/年
-------------	-----------

(クラリスタ)

クラレ玉島(株)	5,000万 m^2 /年 ※2006年6月完工予定
----------	---------------------------------

ディスプレイの未来を切り開く —クラレの光学材料—

なぜ光学材料なのか

当社はこれまで、酢酸ビニル系、イソブレン系、人工皮革系を中心とした素材展開で事業を拡大してきました。独自技術にこだわり素材の特性を生かした市場開拓により、いくつもの世界ナンバー1事業を創り上げてきました。しかし、いくら特長のある素材でもそれだけの生産・販売だけでは成長性や収益性に限度があります。素材に加工を施し付加価値を付け最終製品の高度化に直接貢献する、つまり、スペシャリティーケミカル会社として事業戦略を量から質へ転換する必要があります。当社はポパールやメタクリル樹脂等光学特性に優れた素材の生産・開発技術を有していますが、光学材料はまだ連結売上高の一〇％に過ぎません。成長分野として最も有望な領域の一つとされる光学関連へ高付加価値製品を投入し成長させることが、これからのクラレにとって重要と考えています。

使用ディスプレイ	用途	素材	技術	世界シェア
液晶ディスプレイ (LCD)	偏光膜	ポパールフィルム	フィルム成形	85%
	導光板	メタクリルベレット	精密成形	60%
リアプロジェクションテレビ	オプトスクリーン	メタクリルシート	精密成形	40%

クラレの光学材料

ポパールフィルムは主に衣料包装として使用されていましたが、一九六五年にはサングラスの偏光フィルムとして採用されその優れた光学特性が注目されました。当社のフィルム成形技術により、正確な分子配向、透明性、延伸性、静電防止性、染色性等の特性を引き出し、今や液晶ディスプレイにはなくてはならない素材となっています。また、メタクリル樹脂では、一九八〇年代にダウンストリーム展開としてレーザーディスプレイ事業に参入し、精密成形技術を蓄積させました。導光板やオプトスクリーンはその技術を応用・発展させたものであり、フィルム成形技術と合わせて当社の光学材料開発の基盤となっています。

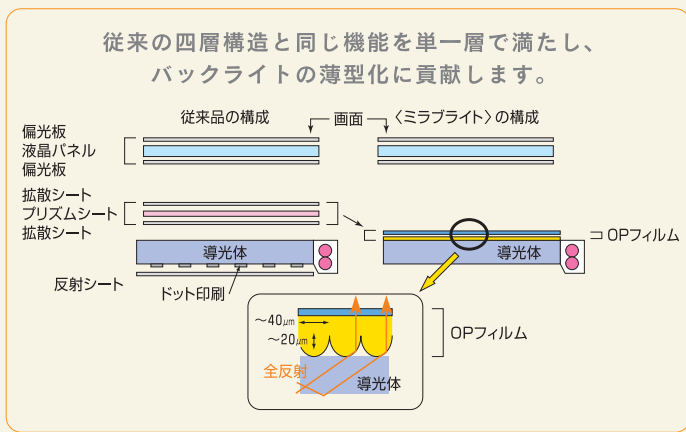
革新的技術によるバックライトの開発

液晶ディスプレイ部材の中でカラーフィルターと並んでコストがかさむバックライトは、薄型化、軽量化、そして低コスト化というニーズがあるにもかかわらず、これまで最も開

発が遅れている部材とされてきました。当社は導光板等で培った技術をベースに、こうしたニーズを満たす画期的なバックライト部品(ミラブライト)の開発に成功しました。(ミラブライト)は、拡散とプリズムという複数の機能を果たす特殊フィルム(OPフィルム)と導光板を張り合わせて、一枚の薄い板に集約させたことで、バックライトユ

ニットの薄型化、品質の安定化、部材・組立コストの低減、収率向上などにつながります。また、OPフィルムはマイクロレンズ構造を有し、光の取り出し効率が従来品より約二〇％向上します(クラレ調べ)。当社は経済産業省が主導する「次世代モバイル用表示材料

技術研究組合「(TRADIM)にてバックライトの開発を担当し、この度「ミラブライト」の技術を応用して、従来「〇.三六mmまで厚のバックライトユニットを〇.二五mmまで薄めることに成功しました。これにより液晶ディスプレイの大幅な薄型化が可能となり、携帯機器の更なる小型軽量化に貢献できると考えています。



「超高輝度無機EL」の共同開発

液晶ディスプレイの更なる薄型化には、バックライト材料の薄型化に加えて光源自体の薄型化が不可欠です。現在、光源には冷陰極管や発光ダイオード(LED)が使用

されていますが、前者は薄型化に限度があり後者は点で光るため大型ディスプレイに不向きという難点がありました。これらに比しエレクトロルミネッセンス(EL)は、超薄型が可能で、点ではなく面で発光するため次世代の光源として大きな注目を集めています。EL

「超高輝度無機EL」の特長

	輝度 (cd/m ²)	寿命 (時間)
超高輝度無機EL	350,000	25,000以上
無機EL	100	30,000
有機EL (低分子系)	1,000	10,000

- ◆ 低電圧 (5~6V) で発光 → 電池でも駆動可能
- ◆ 超高輝度で発熱がない → 長寿命
- ◆ コーティング製法で大面積光源が作成可能 → 安価な製法
- ◆ 空気・湿気に対し安全性が高い → 取り扱い (製造) 容易

は無機と有機の両方で開発が進められていますが、無機は長寿命だが輝度不足、有機は輝度は良いが寿命が短いといった弱点があり、輝度と寿命のトレードオフの関係が解決すれば究極の光源となると期待されていました。当社のバックライト材料のビジネスパートナーである茶谷産業株式会社は、トレードオフの関係を解決した超高輝度で超寿命の無機ELを開発し、この度両社で実用化に向けた共同開発を開始しました。まず液晶ディスプレイ用バックライトの白色光源の製品化に向けて開発を進め、二〇〇六年秋のサンプル出荷を目指します。また「ミラブライト」と、この「超高輝度無機EL」を結びつけた新たなバックライトユニットを開発していきます。将来的には、各種照明光源・フルカラーディスプレイ用発光材料の開発も視野にいれています。

ディスプレイの未来に貢献

茶谷産業(株)の無機材料開発技術と当社の高

各種ディスプレイの現状レベル

		ブラウン管	液晶ディスプレイ	プラズマディスプレイ	エレクトロルミネッセンス		
		CRT	LCD	PDP	無機EL	有機EL	超高輝度無機EL (開発中)
画質	輝度	○	△	△	×	△	◎
	視野角	◎	△	○	◎	◎	◎
	動画性能	◎	△	○	◎	◎	◎
薄型対応		×	○	△	◎	◎	◎
消費電力		×	△	△	○	○	◎
製品寿命		◎	○	△	◎	△	◎

分子・合成・精密成形技術の融合による超薄型で長寿命、しかも低消費電力でどんな画面サイズにも対応できる、まさに究極のディスプレイ部材の開発に経営資源を投入していきます。当社の研究開発は有力な企業や機関とより一層協力しながら新たな技術を蓄積し、ディスプレイの未来に貢献していきます。

クラレ トピックス

4月

熱可塑性エラストマー生産設備を増強

熱可塑性エラストマー(当社商標「セプトン」(ハイブラー))の世界的な需要拡大に対応し、生産設備を増強しています。

四月には鹿島事業所(茨城県神栖市)での増強工事(年産+四、〇〇〇トン)が完了し、稼働開始しました。(増強後 生産能力年産 二三、〇〇〇トン)七月にはセプトンカンパニー・オブ・アメリカ(テキサス)に年産+六、〇〇〇トンの能力増強を決定しました。(増強後**生産能力年産二八、〇〇〇トン 二〇〇七年三月完工予定)



〈セプトン〉製品例

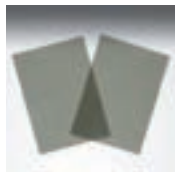


セプトンカンパニー・オブ・アメリカ

5月

ポリアルフィルム(偏光フィルム向け)生産設備の本格稼働開始・クラレ玉島

LCD(液晶ディスプレイ)の主力部材である偏光フィルムのベースとなるポリアルフィルムの生産設備(第一ライン…年産能力、五〇〇万㎡)が本格稼働しました。(第二ライン…年産能力二、五〇〇万㎡も試運転を開始し、二〇〇五年度下期中に稼働の予定です。)



液晶表示用
偏光フィルム

事業所	数量	備考
クラレ西条(株) (愛媛県西条市)	3,100万㎡	
クラレ玉島(株) (岡山県倉敷市)	3,000万㎡	第一ライン: 1,500万㎡ 本格稼働開始 第二ライン: 1,500万㎡ 試運転開始
合計	6,100万㎡	

セラニーズ・アドバンスト・マテリアルズ社から(ベクトラン)事業を買収

セラニーズ・アドバンスト・マテリアルズ社(米国)からポリアリレート繊維(ベクトラン)事業を買収しました。(ベクトラン)は、高強力高弾性・低クリープ性・非吸湿性・極低温下での高強力物性・耐湿磨耗性などの特長を持ち、水産資材やロープ、プラスチック補強材、防護手袋といった広範な用途に使用されています。日・米での研究開発、生産・販売体制の三元化により事業の拡大に拍車をかけていきます。



〈ベクトラン〉使用 飛行船



〈ベクトラン〉原糸

マイクロ空間細胞培養チップを開発

研究用途に応じてカスタマイズが可能な細胞培養チップの開発に成功しました。これは、樹脂基板上で立体的な増殖・分化、および伸張・配向方向の制御が可能なマイクロ空間の細胞培養チップで、再生医療やバイオアッセイ(生物検定)等の研究に寄与するものです。当社が持つ高分子材料技術、微細加工技術、バイオ技術を融合し、ライフサイエンス領域に事業展開していきます。

6月

高付加価値バリアフィルム(ケラリスト)を事業化(ケラレ玉島)

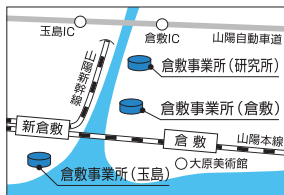
高いガスバリア性と、耐レトルト性、優れた二次加工性などを併せ持つ、新しいレトルト食品包装用透明バリアフィルム(ケラリスト)の生産設備の新設に着手しました。高バリア性能(日あたりの酸素透過量が1cc/m以下)と耐レトルト性(二五〇、六〇分の加熱殺菌処理が可能)を兼ね備える、従来品とは一線を画した当製品は、主にレトルト食品の包装材料としての需要を見込んでいます。(参考記事 本誌6ページ)

倉敷事業所の再編を決定

倉敷事業所…「倉敷」「玉島」「研究所」の三拠点の再編・整備を決定しました。「玉島」に「生産技術・開発センター(仮称)」を新設し「倉敷」の開発機能の大半を移転・統合して、研究開発体制の整備強化を図ります。また、「研究所」には「倉敷」から開発機能の一部を移転し、「倉敷」にはメディカル関連の生産設備を集約する等、各拠点での効率的な運営を図ります。総額約一〇〇億円を投じ、二〇〇八年を目処に体制を整えていきます。



倉敷事業所航空写真



MMAモノマー生産会社の合併解消

メタクリル樹脂の原料であるMMAモノマー(メタクリル酸メチル)の生産会社共同モノマー株式会社の保有株式を、折半出資の三井化学株式会社に譲渡し、合併を解消しました。(九月三〇日)

コンタクトレンズ事業を移管

クラレメディカルの社員と株式会社エイコー(本社…愛知県名古屋市中区で設立した新会社、株式会社フアシルに、クラレメディカル株式会社(本社…東京都千代田区)のコンタクトレンズ事業を移管しました。



フェイスカバーディッシュ



細胞培養チップ拡大写真

「第三回(パークカッショ)美脚大賞」を開催

婦人靴メーカー六社で構成する「(パークカッショ)クラブ」が第三回(パークカッショ)美脚大賞を開催しました。二〇代、三〇代、四〇代の各年代別に、それぞれ佐藤江梨子さん(タレント)、神田うのさん(タレント)、未唯さん、歌手の三名が大賞に選ばれました。受賞者には美脚の栄誉を讃え、各受賞者自らのデザインでつくられた「パークカッショ」製のパンプスが贈呈されました。
※高級人工皮革(パークカッショ)の特性を生かした新時代の靴の制作を目的に婦人靴メーカー ホン/ウッドハウス/イナバ/バスコ/ポリレーション/エースコ/ポリレーション/カワノで結成されています。



受賞者の方々
左より、
佐藤江梨子さん
神田うのさん
未唯さん



受賞者に贈られた
(パークカッショ)
パンプス

中国の活性炭新工場の稼働開始

クラレケミカル(株)が活性炭の旺盛な需要増加を受け、中国・寧夏回族自治区に設立した一〇〇%出資の現地法人 可楽麗化学(寧夏)環境化工有限公司(資本金一五億円)の稼働が開始しました。初年度の生産能力は、一〇〇〇トン/年、二〜三年後に三、〇〇〇トン/年、四〜五年後に五、〇〇〇トン/年、将来的には一〇、〇〇〇トン/年を視野に入れています。

中間連結損益計算書の要約

負債の部	当中間期 ^{*1}	前期 ^{*2}	増減
流動負債	779	849	△ 70
支払手形及び買掛金	390	417	△ 26
短期借入金	128	134	△ 7
その他	261	298	△ 37
固定負債	563	549	14
社債	100	100	—
長期借入金	59	62	△ 4
その他	405	387	18
負債合計	1,342	1,398	△ 55
少数株主持分	当中間期 ^{*1}	前期 ^{*2}	増減
少数株主持分	23	23	0
資本の部	当中間期 ^{*1}	前期 ^{*2}	増減
資本金	890	890	—
資本剰余金	872	872	0
利益剰余金	1,457	1,390	68
その他有価証券評価差額金	123	90	33
為替換算調整勘定	△ 2	7	△ 8
自己株式	△ 118	△ 118	△ 0
資本合計	3,221	3,129	92
負債、少数株主持分及び資本合計	4,587	4,549	37

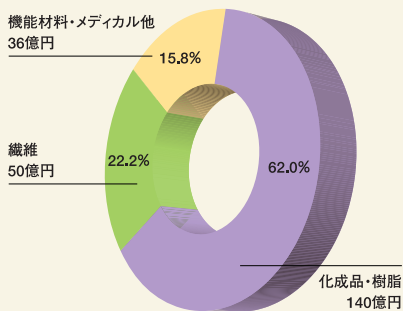
(単位:億円)
 *1:2005年9月30日現在
 *2:2005年3月31日現在

科目	当中間期 ^{*1}	前中間期 ^{*2}	増減
売上高	1,793	1,756	37
売上総利益	519	503	17
販売費及び一般管理費	348	335	13
営業利益	171	167	4
営業外収益	12	30	△ 18
営業外費用	33	38	△ 5
経常利益	150	159	△ 9
特別利益	10	1	8
特別損失	17	2	15
税金等調整前中間純利益	142	158	△ 16
法人税、住民税及び事業税	42	53	△ 11
法人税等調整額	8	6	1
少数株主損益	(減算)1	(減算)0	△ 0
中間純利益	92	98	△ 6

(単位:億円)
 *1:2005年4月1日～2005年9月30日
 *2:2004年4月1日～2004年9月30日

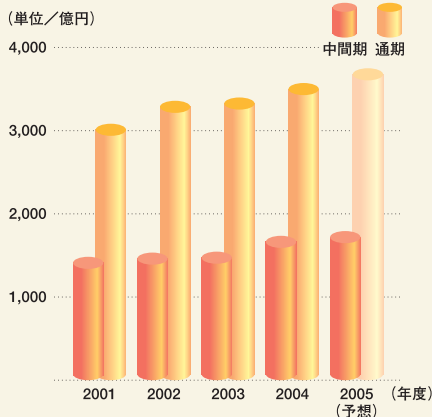
※損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書の金額表示は億円未満を四捨五入しています。

セグメント別営業利益構成比(連結)

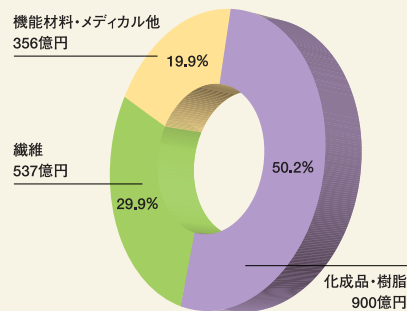


* 全社共通費用 (55億円) は各セグメントには配賦していません。

売上高(連結)



セグメント別売上構成比(連結)



中間連結キャッシュ・フロー計算書の要約

中間連結貸借対照表の要約

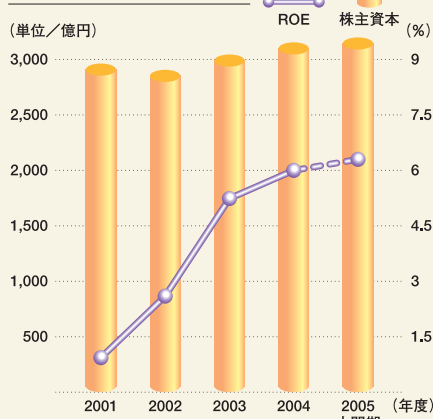
科目	当中間期*1	前中間期*2
1.営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前中間純利益	142	158
減価償却費	117	102
法人税等の支払額	△57	△39
その他営業活動による収入又は支出	△75	△18
営業活動によるキャッシュ・フロー	126	203
2.投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形・無形固定資産の取得による支出	△202	△167
投資有価証券の純減少額	27	36
その他投資活動による収入又は支出	30	△2
投資活動によるキャッシュ・フロー	△146	△133
3.財務活動によるキャッシュ・フロー		
借入金の純増加額又は純減少額	△7	24
コマーシャルペーパーの純減少額	—	△30
自己株式の純増加額	△0	△1
配当金の支払額	△24	△20
財務活動によるキャッシュ・フロー	△31	△27
4.現金及び現金同等物に係る換算差額	△2	1
5.現金及び現金同等物の増加額又は減少額	△52	44
6.現金及び現金同等物の期首残高	167	70
7.新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	0	11
8.現金及び現金同等物の中間期末残高	115	126

(単位:億円)
*1:2005年4月1日～9月30日現在
*2:2004年4月1日～9月30日現在

資産の部	当中間期*1	前期*2	増減
流動資産	1,738	1,823	△85
現金及び預金	115	167	△52
受取手形及び売掛金	829	832	△2
有価証券	—	60	△60
棚卸資産	682	642	40
その他	122	131	△10
貸倒引当金	△10	△9	△1
固定資産	2,848	2,726	122
有形固定資産	1,660	1,583	77
建物及び構築物	337	335	2
機械装置及び運搬具	821	806	15
建設仮勘定	274	215	58
その他	228	227	1
無形固定資産	348	379	△31
投資その他の資産	841	764	77
投資有価証券	343	280	63
その他	511	498	13
貸倒引当金	△13	△13	0
資産合計	4,587	4,549	37

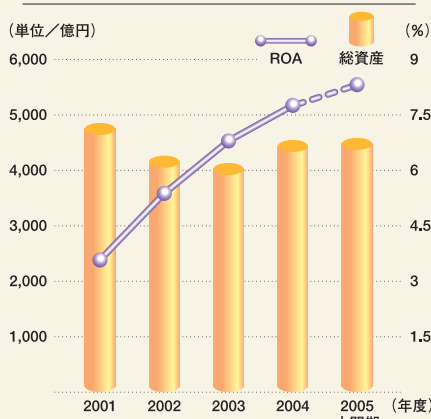
(単位:億円)
*1:2005年9月30日現在
*2:2005年3月31日現在

株主資本・ROE (連結)



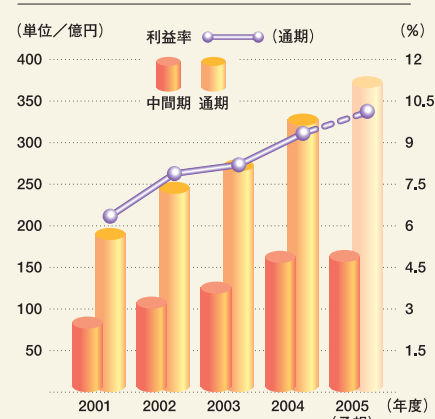
* ROE (株主資本当期利益率)
= 当期利益 ÷ 期首・期末平均株主資本 × 100 (%)
* 2005年度中間期のROEは、
通期の当期利益見通しに基づき算出しています。

総資産・ROA (連結)



* ROA (総資産利益率)
= 営業利益 ÷ 期首・期末平均総資産 × 100 (%)
* 2005年度中間期のROAは、
通期の営業利益見通しに基づき算出しています。

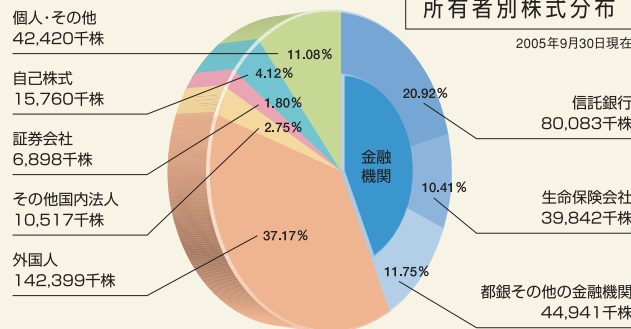
営業利益・営業利益率 (連結)



* 営業利益率
= 営業利益 ÷ 売上高 × 100 (%)

所有者別株式分布

2005年9月30日現在

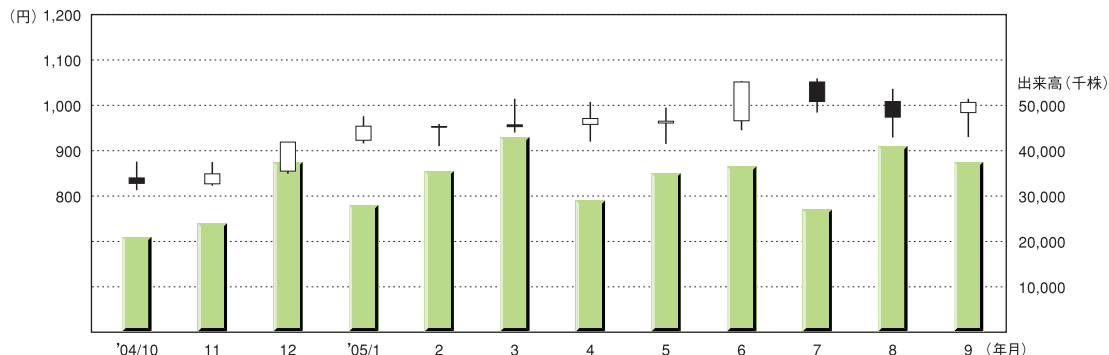


会社が発行する株式の総数 700,000,000 株

発行済株式の総数 382,863,603 株

株主数 26,366 名

株価・出来高の推移チャート

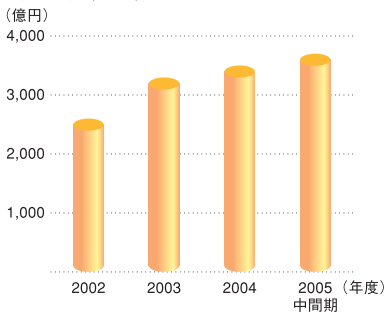


株価の推移 (単位:円)

* 最高・最低株価は東京証券取引所における市場相場による。

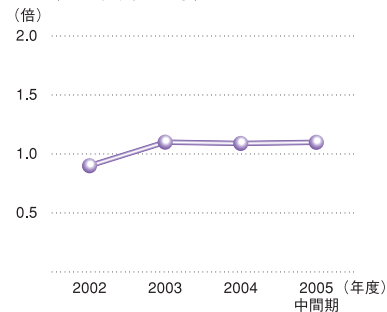
年月	2004年 10月	11月	12月	2005年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高	876	875	919	976	959	1014	1007	995	1053	1059	1036	1017
最低	813	823	847	916	910	940	920	915	945	984	929	930

時価総額 (期末)



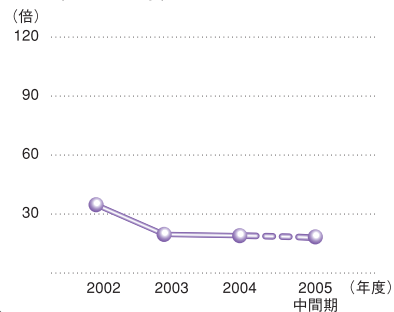
* 時価総額=期末株価×期末発行済株式総数

PBR (株価純資産倍率)



* PBR=期末株価÷(期末株主資本÷期末発行済株式総数)

PER (株価収益率)



* PER=期末株価÷(当期利益÷期中平均発行済株式総数)
* 2005年度中間期のPERは、2005年9月末日の株価、期中平均発行済株式総数、通期の当期利益見通しに基づき算出しています。

アンケート Q&A

株主の皆様とのコミュニケーションの一環としてアンケートを実施しています。
以下にお寄せいただいたご質問を掲載させていただきます。

アスベスト(石綿)代替素材のビニロンは、
今後どのような見通しですか？

25年前にクラレが先鞭をつけたアスベスト代替素材のビニロンはセメント補強材(FRC)の用途に、現在では全世界で約25,000t/年まで需要が拡大しています。

地域的には欧州市場の需要が最も高い一方、日本はスレート製法の違いもあって、約3,000t/年の需要にとどまっています。

ビニロンは、①セメントとの親和性 ②耐アルカリ性 ③強度 ④耐候性等、アスベスト代替素材として必要な特性を多く備えており、クラレはこの分野でも市場をリードしています。2005年1月にはEUでアスベスト使用が全面禁止となりましたが、今後は、日本をはじめとして東欧、ロシア、中南米、東南アジアなどで規制が強化されるため、着実な需要の拡大が予想されます。

アンケート ご協力の お願い

「クラレ通信」をご覧いただきまして、ありがとうございます。今後も皆様からのご意見、ご感想を賜りながら、株主の皆様とクラレグループを結ぶコミュニケーションツールとして機能していきたいと思っております。つきましては添付のアンケートにご協力いただけますようお願い申し上げます。ご回答いただいた方には ハマヤ(株)のドリップコーヒーをプレゼントいたします(フィルター素材をクラレクラフレックス(株)の〈マイクロフレックス〉を使用)。今後も一層のご理解、ご支援のほどお願い申し上げます。なお、勝手ながらアンケートは12月31日(消印有効)に締め切らせて戴きます。

ドリップ21 カフェレギュラーコーヒー
(内容:プレミアムモカブレンド8g×5袋、プレミアムキリマンジャロブレンド8g×5袋)





株 主 メ モ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月下旬
株 主 確 定 日	定時株主総会・利益配当金 3月31日 中間配当金 9月30日
公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞 決算公告については公告掲載新聞に代えて 当社ホームページに掲載しています。 http://www.kuraray.co.jp/
名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 〒540-8639
事 務 取 扱 場 所	住友信託銀行株式会社 証券代行部 (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417 (その他のご照会) ☎0120-176-417
同 取 次 所	住友信託銀行株式会社 全国各支店
